

NSKニードルベアリング株式会社

所在地：高崎市八幡町358番地
労働者数：1,710名（女性530名、男性1,180名）
事業内容：ニードルベアリングの製造
代表者：代表取締役社長 殿塚 崇



従業員が安心して働ける職場環境へ

当社では女性従業員がより一層活躍できるよう、社内制度の整備や拡充を実施して参りました。現在では女性の従業員が全体の3割を占めており、製造業の中においては女性従業員比率の高い会社であると言えます。

また、これまでの女性管理職の登用は管理部門が中心でしたが、平成26年には製造部門初の女性班長が2名誕生し、生産現場において活躍しております。

ダイバーシティの更なる推進に向け、これからも従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮でき、安心して働ける職場環境づくりを目指して参ります。

殿塚 代表取締役社長



女性の活躍が会社のチカラに

今まで64人が育児休業を取得しています。ひとりの方が2回目、3回目と育休を取得するのが最近の特徴です。育休第1号の荒木望さん（写真右から2番目）はお子さんが16歳の高校生になり、現在女性係長として活躍しています。

（荒木望さんのコメント）「普段ゆっくり子供と関われない分、工場祭や旅行など子供も一緒に参加できるイベントが多いので親子で楽しむことができました。」

当社には荒木さんを含め女性管理職が5名おりますが、皆さん、家庭と仕事を両立しながら頑張っています。

女性の感性が光る社内会議



育児休業制度の概要及び実績

- ・**育児休業**…原則として子が1歳に達するまで、特別な事情があれば1歳6か月に達する日の属する月の末日まで取得可能。男性が2名、女性が21名取得。女性の取得率は100%。
- ・**育児短時間勤務制度**…子が小学校に入学した年の4月末日まで利用可能とし、入学直後の慣らし登校をサポート。女性13名が利用。
- ・**子の看護休暇**…子が小学校に入学するまで、病気等の看護のため、子が1人の場合は年5日間、2人以上の場合は年10日間取得可能。女性7名が利用。

※ 取得率等のデータは、平成25年1月～平成26年12月までの実績

NSKニードルベアリングの概要を紹介します。

- ・当社はニードルベアリングと呼ばれる製品を製造しています。
- ・ニードルベアリングは「**摩擦を減らす**」働きをする部品で、自動車産業をはじめ、産業用機械やIT機器など幅広い分野で、重要機能部品として使われています。日常生活の中で皆さまが目にする機会はほとんどありませんが、自動車のエンジンやトランスミッション、電動工具や事務機器などに組み込まれ、皆さまのもっとも身近な所で活躍している製品です。
- ・また、当社はベアリングの世界的ブランドである**日本精工(NSK)グループ**の一員として、国内には県内の高崎市に2拠点、海外には中国・ポーランド・韓国・インドネシアそれぞれに拠点を構え、ワールドワイドに製品を供給しています。

女性が女性らしく働くために

保健スタッフが妊婦さんとその上司に対し、働きながら健やかな妊娠生活を送れるようアドバイスをしています。妊婦さんからは「安心できる」と好評です。

女性従業員が多い職場の上司に対しては「女性特有の病状とその対応」について教育を行い理解を深めています。今後は女性のキャリアプラン形成のためのセミナーを実施し、女性が輝き続けられる職場づくりを支援していきます。

頂いたくるみんマークはホームページ等で活用。働きやすく従業員に優しい会社であることをPRし、優秀な人材確保につなげていく予定です。

妊婦さんを周囲の仲間がサポート



イクメン推進プロジェクト

「奥様に届くメッセージを」と考え、給与明細の表紙に男性の育児休業取得推進についてコメントを入れました。その結果、2名の男性が育児休業を取得しました。

社内で開催した従業員の奥様向け健康セミナーの場でも、「イクメンのすすめ」をアピールしています。

(育児休業を取得した奥原正浩さんのコメント)

「妻が2人目を出産したときに、出産日から2週間育児休業を取得しました。出産後の一番大変なときに妻のサポートができ、上の子供と2人きりの時間を持てたので良い経験になりました。家族の絆が強まりました。」

強くて優しい若きイクメン!



NSKニードルベアリングは、働き方の見直しを進めています。

年次有給休暇の取得促進に力を入れています!

取り組み1. 管理職を対象とした年次有給休暇取得推進会議の実施

取り組み2. 低取得者の把握と職場別・個別フォローの実施

年次有給休暇の取得実績は1人あたり年平均12.1日(平成26年度)となっています。

『休むことが特別ではない』 休暇への理解促進

「一人毎月1回の有休によるリフレッシュ」を全社的な目標に掲げることで、働くママ・パパが、子供の急な病気や保育園・学校の行事でも休みやすい環境につながっています。